



ISSN 1894-7730

安曇野ちひろ美術館
美術館だより

No.111

2023.5.22

ちひろ美術館セレクション 2010→2021 日本の絵本展

●2023年6月3日(土)～9月3日(日)

主催：ちひろ美術館

協力：B L出版、あかね書房、アリス館、岩崎書店、偕成社、くもん出版、講談社、小峰書店、集英社、スイッチ・パブリッシング、玉川大学出版部、童心社、福音館書店、ブロンズ新社、ポプラ社、理論社

後援：絵本学会、(公社)全国学校図書館協議会、(一社)日本国際児童図書評議会、日本児童図書出版協会、(公社)日本図書館協会



図1 荒井良二
『なんていいんだぼくのせかい』(集英社)より 2012年 個人蔵



図2 吉田尚令
『希望の牧場』(森絵都・文、岩崎書店)より 2014年 個人蔵 ※東京館のみの出展

ちひろ美術館では10年ごとに時代を象徴する絵本を紹介する展覧会を開催しています。新型コロナウイルス感染拡大の影響を受け3年延期となった本展では、2010年から2021年までに刊行された絵本から、30冊の絵本を紹介します。時代に求められ生まれた、多様な表現の絵本をご覧ください。なお、前編となる本稿では、主に2010年代前半の出来事と作品を紹介します。

東日本大震災

2011年3月11日に起こった東日本大震災は今なお大きなつめ跡を残しています。

震災後、「3.11」や「福島」を取りあげた絵本が多く登場し、いのちの尊さを問う作品も生まれました。

荒井良二は、震災直後から被災地へ通いボランティアでワークショップを行っています。『なんていいんだぼくのせかい』では、主人公は外の世界へ出て、よろこび、悲しみ、怒りを知りますが、世界を肯定するように「なんていいんだぼくのせかい」と繰り返し、営みを続けます(図1)。

吉田尚令『希望の牧場』は、福島第一原子力発電所の警戒区域内に取り残された牧場をモデルにした絵本です。吉田は、人物をデフォルメして描きながらも牛飼いの表情の奥にある感情や息遣いまでもとらえています(図2)。

伊藤秀男『はしれ、上へ! つなみてんでんこ』は、約600人の小・中学生が山へ走り、避難した実話をもとにした絵本。津波の描写は生々しく、写実を超えたりアリティで読者の胸に迫ります(図3)。

『あなたがおとなになったとき』は、湯本香樹実が震災のチャリティのために書いた詩に、はたこうしろうが絵を描きました(図4)。少年と少女が廃墟のある草原や、学校、森、海辺、街を進んでいく描写は、読者を希望あふれる世界に導くようです。

『ひばりに』は、2012年に内田麟太郎が震災にあった子どもたちに向けて書いた詩に、植田真が絵を描き、2021年に刊行されました(図5)。社会がコロナ禍の閉塞感や不信感に包まれていたころ、植田のやわらかな絵は人々の心に寄り添い共感を得ました。

平和を伝える絵本

2013年に特定秘密保護法が成立、2014年に政府が集団的自衛権行使容認を閣議決定するなど、第二次世界大戦後の社会活動や教育の根底にあった平和、自由、民主主義の価値観が揺さぶられる出来事が起こりました。子どもの本に携わる人々の間でも平和を守るための議論が行われ、過去の戦争をテーマにした絵本も生まれます。

日本、中国、韓国の画家が議論を重ね、協力しあい実現した「日・中・韓平和絵本シリーズ」が震災直後から刊行されます。田島征三『ぼくのこえがきこえますか』は、戦場でいのちを奪われた人々の怒りや悲しみを抽象的な形や激しい筆致で表現し、戦争の理不尽さを力強く訴えました(図6)。

『へいわってすてきだね』は2013年の沖縄全戦没者追悼式で朗読された少年の詩をもとにした絵本で、長谷川義史は与那国島の美しい自然を鮮やかな色彩やにじみを生かした水彩のタッチで表現しました(図7)。

スズキコージ『ドームがたり』は、かつて広島県物産陳列館と呼ばれていたドーム自身が広島に落とされた原子爆弾の惨禍を語ります(図8)。

上村亮太『アネモネ戦争』は同名のアートブック作品を元にした絵本。椅子だけが残された街やのろしを上げる人々……。架空の国を舞台にした物語ですが、王様を恐れて口をつぐむうちに戦争がはじまるようすは、現実と重なります(図9)。

そのほかに、2010年代前半に注目を集めた絵本の一部を紹介します。三浦太郎『ちいさなおうさま』は、人物や小物のパーツをひとつずつ紙で切り出し、スキャニングしてデジタルで彩色・調整し、制作されています(図10)。画面構成や黒を引き立たせた色彩のバランスなどが美しい1冊です。

みやこしあきこ『もりのおくのおちゃかいへ』は、色彩を抑え、やわらかな木炭で描かれています。黒の濃淡で、冬の森の冷たさから室内のあたたかさまでが自在に表現されています(図11)。

片山健『とくんとくん』は、1997年に発表された同名作品に加筆し、2012年に刊行されました。男の子の異質な雰囲気や少女の高揚感が、油彩によって幻想的に描かれています(図12)。

出久根育『かえでの葉っぱ』は、一枚の葉の一生が、チェコの美しい風景や四季の移ろいととも、テンペラ技法を用いた鮮やかな色彩で描かれます(図13)。

『ふしぎなともだち』は、淡路島に移住した田島征彦が、島で障がいのある子もいない子どもにも教育を受け、働いていることを知ったことからつくられました(図14)。竹紙に型絵染で描かれることで、島の自然や人々の素朴な魅力を伝えています。

酒井駒子『まばたき』は、写実的な絵に穂村弘による短いことばがくり返し積み込まれ、無限にも感じられる一瞬を絵本で表しています(図15)。

この12年間、社会の出来事にも呼応して、画家たちがいのちや子どもに向き合い続けた結果、優れた絵本表現が数多く生まれ、多様な方向性を示しました。

後編では、主に2010年代後半の出来事と絵本を紹介します。(高津つぐみ)

*後編は、東京館の展示にあわせ、ちひろ美術館・東京 美術館だより(Na219)に掲載します。



図3 伊藤秀男『はしれ、上へ！ つなみてんでんこ』（指田和・文、ポプラ社）より 2013年 個人蔵



図4 はたこうしろう
『あなたがおとなになったとき』（湯本香樹実・文、講談社）
より 2019年 個人蔵



図5 植田真
『ひばりに』（内田麟太郎・詩、アリス館）より
2021年 個人蔵



図12 片山健
『とくとんとくん』（片山令子・文、福音館書店）
より 2012年 小さな絵本美術館寄託



図6 田島征三
『ほくのこえがきこえますか』（筆心社）より 2012年 個人蔵



図7 長谷川義史
『へいわってすてきだね』（安里有生・詩、
フロンズ新社）より 2014年 個人蔵



図8 スズキコージ
『ドームがたり』（アーサー・ピナード・文、
玉川大学出版部）より 2017年 個人蔵



図9 上村亮太
『アネモネ戦争』（BL出版）より 2020年 個人蔵



図10 三浦太郎
『ちいさなおうさま』（偕成社）より 2010年 個人蔵



図11 みやこしあきこ
『もりのおくのおちゃいへい』（偕成社）より 2010年 個人蔵



図13 出久根育
『かえでの薬っば』（デジュー・ムラースコヴァー・文、関沢明子・訳、理論社）より 2012年 個人蔵

出展作家一覧（五十音順）

阿部海太、荒井良二、安野光雅、伊藤秀男、井上洋介、植田真、上村亮太、片山健、きくちちき、酒井駒子、しおたにまみこ、junaida、スズキコージ、田島征三、田島征彦、館野鴻、田中清代、tupera tupera、出久根育、長谷川義史、はたこうしろう、堀川理万子、町田尚子、松本大洋、三浦太郎、みやこしあきこ、ミロコマチコ、村上康成、ヨシタケシンスケ、吉田尚令

※一部の作品は、入れ替えて展示します。



図14 田島征彦
『ふしぎなともだち』（くもん出版）
より 2014年 ちひろ美術館蔵



図15 酒井駒子
『まばたき』（穂村弘・文、岩
崎書店）より 2014年 個人蔵

1950-1970年代の絵本 絵本画家いわさきちひろ

●2023年6月3日(土)~9月3日(日)

主催：ちひろ美術館

ちひろが絵本を描いた1950年代から1970年代は、日本の絵本が大きく花開いた時代でした。本展では、ちひろの代表的な絵本を、ちひろや編集者のことば、資料とともに、時代を追って紹介します。

絵本画家としての始まり—1950年代

戦後、日本では欧米の高い水準の絵本が紹介されるようになります。絵と文とが一体となり、1冊のなかで物語が展開する絵本は、童謡や童話などを見聞きごとに別の画家が描く絵雑誌が主流だった日本の絵本に大きな影響を与えます。



図1 そろじをする子ども
『ひとりのできるよ』(福音館書店)より 1956年

1956年、ちひろは最初の絵本『ひとりのできるよ』(図1)を手がけます。これは、同年、「毎号1つの物語にひとりの画家がさし絵を描く物語絵本」という企画で福音館書店から創刊された「月刊物語絵本 こどものとも」のなかの1冊でした。編集者・松居直は、「非常にフレッシュな感覚の絵を描いて」いることに目を留め、当時、絵雑誌を中心に仕事をしていたちひろを起用しました。ちひろは、1週間ほど旅館に籠り、意欲的に取り組みます。5歳の息子を持つ母親としての

視点をもとに、日常のことができるようになっていく子どもの姿をいきいきと描き出したこの絵本で、ちひろは子どもが描ける画家としての評価を高めました。

新しい絵本への挑戦—1960年代

1960年代には、高度経済成長とともに、多くの絵本が出版され、日本の絵本は黄金時代を迎えます。絵本は新たな表現の場として注目され、新しい企画や本格的な絵本創作への取り組みが始まりました。ちひろもこの時代、革新的な絵本を手がけています。

1960年、ちひろは『あいうえおのほん』(図2)を出版します。童心社が初めて出版する絵本で、「子どもが字を覚える本、それを美しい日本語であいうえお順に並べる」企画でした。童話作家・浜田廣介の文章にちひろが絵を描いた本作は、「あいうえおブック」の先駆けとして高い評価を受け、絵本では初めてとなる産経児童出版文化賞を受賞しました。



図2 ざいすぞ
『あいうえおのほん』
(童心社)より 1960年



図3 インドの少女
『絵のない絵本』(童心社)
より 1966年

1966年には、ちひろの強い希望で、アンデルセン童話の『絵のない絵本』(図3)が出版されます。人生の悲喜劇を描いた大人向けの物語を絵本にするため、

童心社は、若い世代を対象としたモノクロームの絵本という新しい企画を立てました。鉛筆と墨で物語の世界を叙情豊かに描いた本書は好評を博し、画家が好きな文学を選んで描く「若い人の絵本」としてシリーズ化されます。子どもという制約なしで描いたこの仕事は、表現の幅を広げるきっかけともなりました。

「絵本の可能性」を求めて—1968年



図4 カーテンにかくれる少女
『あめのひのおるすばん』(至光社)より 1968年

「新しい、生き生きとした仕事がほんとうにしたい」と考えていたちひろは、1968年、至光社の編集者・武市八十雄とともに「絵本でなければできないことをしよう」と実験的な絵本づくりに取り組みます。1作目の『あめのひのおるすばん』(図4)では、明確なテーマは決めず、「雨」「留守番」などの大まかなプロットをもとに絵を描いた後、それを並べて構成し、最後に短いことばをつけるという手法で、少女の心の世界を描き出しました。説明的な要素は極力省き、見る人のなかにうまれるイメージや感覚を重視したこの試みは、「感じる絵本」と呼ばれる新たなジャンルを確立しました。

日本の絵本の隆盛期に、絵本の可能性を求めて新しい絵本づくりに挑戦したちひろの仕事をご覧ください。(宍倉恵美子)

●展示室 3

ちひろ美術館コレクション 熱帯の国々の絵本

●2023年6月3日(土)~9月3日(日)

主催：ちひろ美術館

2023年は日本とベトナムの外交関係樹立50周年です。このことを機会として、ちひろ美術館コレクションのベトナムの画家、タ・ヒー・ロン『姫君と望遠鏡』を中心に赤道に近い熱帯の国々6カ国の作品を展示します。豊かな自然や地域独特のくらしのなかで描かれた、個性の光る作品をお楽しみください。

ベトナムの民話『姫君と望遠鏡』

ベトナムのイラストレーター、タ・ヒー・ロンが民話をもとに描いた絵本で、2009年野間国際絵本原画コンクール佳作に選ばれました。なんでも見える望遠鏡を持つ姫君。3日間見つからなければ姫君と結婚することができると知った王子は難題に挑戦します。ワシと空へ隠れて



タ・ヒー・ロン(ベトナム)『姫君の望遠鏡』より 2008年も、ワニのおなかに隠れても姫君はすぐに王子を見つけます。王子の運命は？動物や人の動きがユーモラスに描かれていて、楽しい絵本です。

スリランカの絵本『かさどろぼう』

小さな村に住むおじさんが、町で初めて見た傘を村の人のために買って帰ります。しかしコーヒーを飲んでいる間に傘は盗まれてしまいました。犯人は一体何

者なのでしょう？ シビル・ウェッタシンハがつくったこの物語は、中国語や韓国語、スウェーデン語など世界各国で翻訳、出版されています。太い輪郭線や鮮やかな色、鷹揚でゆったりとした絵からは南の国の湿度の高い空気が感じられるようです。思わず笑みがこぼれる犯人も、熱帯の国だからこそ？ ぜひご覧ください。(矢野ゆう子)



シビル・ウェッタシンハ(スリランカ)
『かさどろぼう』より 1986年

ひとこと ふたこと みこと



3月10日(金)

美術館自体がすごくきれいで木のいいにおいがして落ちついた。絵本のパワーを感じた。

3月11日(土)

ウクライナのこと、3.11のこと、いろいろなことを考えさせられました。ちひろさんが今この世界にいたら、どんな絵を描かれているのでしょうか……。

3月13日(月)

繊細で美しい色使い、時期が変わるごとに化するちひろさんの描き方、構図もしっかり見ることができてよかったです。最も驚いたのは、原爆、戦争をもとに描かれる子どもたちはきっと悲しい、苦しい気持ちが表れるはずなのに、ちひろさんの描く子どもたちは、とても美しく、きれいに感じたこ

とです。なんともいえない、不思議な気持ちになりました……。

3月16日(木)

No war. Recent year, the world is sick. It is important to be kind to people. Even if it is a tiny action from the sight of the world. It can make a big influence to the society in positive ways. * 1
4月8日(土)

初めて来ましたが、とても気持ちのよいところですね。もっとゆっくりしたかったです。桜も美しく、素晴らしい!また近いうちに来られたら……と思います。

4月15日(土)

ちひろさんの絵は、色の塗り方、にじみ、ぼかしだけに目がいきがちだったのですが、いろいろな絵

をよく見ると、デッサンの技術力がものすごく高いことに気づかれました。(中略)ちひろさんの描く小さな子どものひとみは「チョン」とした点で表現されていますが、そこに子どもの表情、気持ちが含まれていて、ただただすばらしいと感じました。

4月20日(木)

What a wonderful and inspiring place! * 2

Richard/The Netherlands

4月22日(土)

私は小5です。ちひろ美術館には初めて行きました。ちひろさんには、ただびつくりのくり返しでした。まず、えん筆と絵の具を使っていねいに上げていてとてもかまどうしました。私はちひろさんが大好きになりました。

安曇野 美術館 日記



3月21日(火) ☀

朝、絵本カフェ近くで雄のキジに出会う。軽やかな足取りですぐに立ち去ってしまうが、長い尾と鮮やかな色に、はっと目を惹かれる。また、中庭のニシキギのまわりに、初めてスマシが咲いていることにふと気づく。鳥たちがどこから種を運んできたようだ。

3月26日(日) ☁

今日は長野県民感謝デー。安曇野ちひろ公園では「まつかわ花咲きまつり」も開催され、あいにくの雨でも、恒例のパンジーの苗の即売会は大人気。美術館も1200人を超える来館者でにぎわった。この春、「信州割」を利用する旅行者も多く、県内の観光に回復の兆しが見えてきた。

4月8日(土) ☁

子どもの展示室では、だれでも自

由に参加できる「想いをつなぐにじみのガーランド」のワークショップを開催中。「世界の素晴らしい世界を感じる時」「素晴らしい世界をつくるために自分にできること」について書かれたひとりひとりのことばに心があたたまる。



4月23日(日) ☀

「ちひろの願い 世界中のこどもみんなに 平和と しあわせを」展関連イベント「出前授業ユニセフと世界のともだち」を開催。岐阜県ユニセフ協会の方々をお招きし、世界の子どもたちが置かれている状況やユニセフの活動につい

てお話しいただいた。参加した小学生たちは、水がめの重さや、栄養失調の子ども腕の太さも体験した。「世界には苦しい思いをしている人がこんなにたくさんいるんだ。できることはやろうと思った!」「あたりまえだと思っていたことがあたりまえではなかった。戦争はやめてほしい」という声に、今日の時間が未来へつなげる一歩になるように願う。なかには「私にも何かできることがあるの?」という問いかけも。大人こそ、この問いに向き合い、行動していかなければならないだろう。



水がめを運ぶ体験をする参加者の子どもたち

風

Vol.6

旬なできごとをピックアップしてお届けします

安曇野ちひろ美術館の周りには、53,500平方メートルの広さをもつ、松川村営の安曇野ちひろ公園が広がっています。「食」「農」「いのち」について体験的に遊び・学べる場所をコンセプトに掲げるこの場所では、地域おこし協力隊や地元の方々に関わりあいながら、さまざまな食農体験が実施されています。なかでも通年で行われるのが「田んぼの教室」です。5月に田植え、6月に生き物観察会と草取り(こちらは自由参加)、9月に稲刈りとはげかけを行い、10月の飯ごう炊さんで収穫した新米をみんなで味わいます。地元で無農薬有機栽培米を育てている農家の方が講師となり、生きた知識

を参加者に届け、お米をつくる大変さ、楽しさを伝えていきます。

参加者は周辺地域から来る人、遠方から来る人とさまざま。初めはお互い距離がありつつのスタートですが、回を重ねるにつれ少しずつ会話が増えてきます。

この活動に参加してみて、美術館ではなかなか体験できない、触覚を使った学びが充実していることを感じました。田植えでは、苗を手に取り、土に入って植えていくときの、冷たく心地いい土の感触が印象的でした。はげかけの米束は想像よりも重いものでした。刈り取った稲の束をはげ棒にかけていくだけの作業ですが、うまくバランスを取らないと並びが崩れ

ていくため微調整が必要です。落穂は拾っても拾っても拾いきれず、何度もかがんでつまむことで一粒の小ささ、大切さを感じることができました。

今年で4年目になる田んぼの教室。田んぼもますます有機栽培に適した土になってきています。こうした村の公園での活動とも連動しながら、地域のみなさんといっしょに安曇野地域の魅力を伝えていきたいと思います。(山本理乃)



●次回展示予定 2023年9月9日(土)～11月30日(木)

〈展示室1・2〉いわさきちひろと師 ^{なかたに たい} 中谷 泰

戦中から戦後にかけてちひろが画家として立つ決意を固める過程を見守った唯一の画家が中谷 泰でした。ちひろが画家として歩み始め、子どもの本を舞台に活躍するようになり、亡くなるまでふたりの交流は続きました。ふたりの画家が周囲のものを見つめるあたたかなまなざしが作品を通して響きあいます。



いわさきちひろ
子ども 1962年



中谷泰
婦人像 1942年

〈展示室4〉没後50年 初山滋展 見果てぬ夢

大正から昭和にかけて、童画の世界に欠かせない画家として子どもの本に膨大な数の絵を遺した初山滋 (1897-1973)。流麗な線と明澄な色彩でつむがれた夢幻の世界は、没後50年を経た今も新鮮さを失いません。「コドモノクニ」などの童画をはじめ、漫画や木版画なども展示し、初山滋の画業を紹介します。






初山滋 「蝶サン ウツシマスヨ！」
1933年 (個人蔵)

〈展示室3〉ちひろ美術館コレクション 冒険する子どもたち

安曇野ちひろ美術館 イベント予定 各イベントの予約・お問い合わせは、安曇野ちひろ美術館へ。

下記イベントおよび展覧会の会期は予告なく変更になる可能性があります。最新情報につきましては、公式サイトをご覧ください。お電話にてお問い合わせください。

TEL.0261-62-0772 chihiro.jp   

ちひろ美術館セレクション

2010→2021 日本の絵本展 展示関連イベント

●はたこうしろうミニトーク&サイン会



学芸員によるギャラリートークのゲストに絵本作家・はたこうしろうさんをお迎えし、『あなたがおとなになったとき』(講談社 2019年)についてお話いただけます。
○日時：7月29日(土) 15:00～16:00
○会場：安曇野ちひろ美術館 展示室4
○参加費：無料(入館料別) ○定員：30名
○申し込み：不要(自由参加)

●はたこうしろうワークショップ

世界にひとつの絵本をつくろう! 共催：松川村図書館

絵本作家・はたこうしろうさんを講師にお迎えし、見たことのない「ヘンテコでびっくりするような絵本」をつくりまします。子どもも大人も、型にはまらず、自由に創作する楽しさを体験してみましよう。
○日時：7月30日(日) 13:00～15:00
○会場：すずの音ホール(松川村)
○参加費：500円(材料費込)
○定員：30名
○対象：年齢制限なし ※未就学児も保護者も1人1冊、絵本をつくりまします。
○申し込み：要事前予約(公式サイト/TEL.にて)



●絵本のじかん

毎月第2・4土曜日
11:30～12:00
○参加費：無料(入館料別)
○定員：20名
○申し込み：不要(参加自由)

季節や展示にあわせた絵本の読み聞かせや素話を、親子でお楽しみください。

●学芸員によるスライドトーク

○日時：6月25日(日)・7月16日(日)
14:00～15:00
14:00～ちひろ展
14:30～セレクション展
○参加費：無料(入館料別)
○定員：30名
○申し込み：不要(参加自由)
学芸員が開催中の展覧会の見どころを、スライドを用いてわかりやすく解説します。

●夜のミュージアム

開館時間を延長し、20時まで開館します。夕暮れどきからライトアップされた幻想的な夜の美術館(設計：内藤廣)で、ゆったりとした時間をお楽しみください。

ちょっとこわいおはなしの会や、安曇野ちひろ公園で「トットちゃんの肝試し」も開催します。浴衣でご来館の方には、絵本カフェのワンドリンクチケット or ショップ10% off チケットをプレゼントします。※絵本カフェは19:00まで
○日時：8月19日(土) 9:00～20:00



●ちひろ忌

2023年8月8日、いわさきちひろ(1918～1974)がこの世を去って、49年目の夏を迎えます。ちひろが生涯願った、世界中の子どもたちのしあわせと平和への思いをご来館のみなさまと分かち合う一日にします。
○日時：8月8日(火) 9:00～17:00



いわさきちひろ ひまわりとあかちゃん 1971年

安曇野ちひろ公園 イベント

●おでかけホリデー

安曇野ちひろ公園にて、5月～10月の毎月第4土曜日に開催。調理体験や火おこし体験、野菜の収穫におさんぽ会やマルシェなど楽しいイベントが盛りだくさんです。

●夏のイベント

・7月22日(土) トットちゃんの夏祭り
・8月19日(土) トットちゃんの肝試し
※雨天・天候不良の場合は中止させていただくこともあります。
安曇野ちひろ公園 TEL.0261-85-8822 / chihiro-park.org

●開館情報

8月は無休、開館時間9:00～17:00となります。

CONTENTS 〈展示紹介〉ちひろ美術館セレクション 2010→2021 日本の絵本展…②③/1950-1970年代の絵本 絵本画家いわさきちひろ/ちひろ美術館コレクション 熱帯の国々の絵本…④/ひとことふたことみこと/美術館日記/風 Vol.6…⑤

美術館だより No.111 発行2023年5月22日